

# 「家がいいね」 第94号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 3. 7

2月19日(日)に新しい

日赤で市民公開講座の一部を担当しました。在宅ケアの実行を勧め、がんでも 家に居ていいんです！」が副題です。以下は話の概要。がんは私達自らの細胞から10年以上をかけ成育するので、見つかった時期に応じ対処しなければしょうがない面があります。



転移したり再発しても、治療の進歩で何年か猶予が望める時代になったので、人生の棚卸しをする機会として落ち着いて対応すべきです。病院での検査や治療の入院は、期間限定となります。実際に急性期病院として日赤は、平均在院日数が11日になっており、2週間以内で何度も分けて利用する形になるでしょう。通院ができなくなる場合でも、自宅へ医療や介護を呼び込む「在宅医療」や「在宅ケア」ができると考えましょう。人生の終わりを自宅で迎える時は、力が衰える場面を、家族が身近に経験しなければなりません。老衰がこんなことだと未経験で、大変に思う人もいますが、命の終わりを知り見送るのは、実は自然なのです。家族の看取りの後で、かかりつけの医師が来ても死亡診断書は大丈夫、書けますからね。

「風呂で亡くなっていたら？」と質問があり、「普段が元氣、かかりつけ医も無かったら、死亡診断書は難しく、警察立会で死体検案書になります」と答えました。「理想のピンピンコロリと状況はそのものー」なのに、実際これは残念ですね。

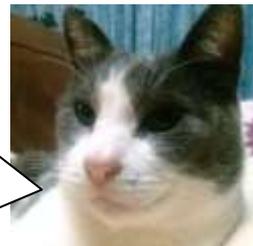
写真は、この4日の内宮正殿の立柱祭。20年毎の伝承です。コロリも一人考えるのではなく、伝承しなければ本物ではありません。私は「順調に弱っているからねー」と冗談を言いながら、皆にお別れを伝えられる時間があるのが理想だ、と思います。



風邪が治ったら、病院に行きますよ

私も若く病院の医師だったころ、こんな会話を患者さんから聞いて、冗談だろうと思っていました。本当は、そんな時ほど来て欲しいのにと考えていました。

在宅医になって、人智が少し分かるようになりました。治ると判断したら無理をして病院に行かなくても、養生はできるのです。気休めの薬と診察までの長い待ち時間で、疲れる必要はないのです。「元氣になったら、病院にも顔をだしてやろっ」ですね。



オレなんか、鼻水とぼして嫌われても、自分から病院なんて、絶対にいかないからねー！

迷惑をかけても、いいじゃないですか

上映期間は終わりましたが面白い映画を見ました。石井裕也監督の「ハラがコレなんで」という人を見た題です。妊娠9カ月の妊婦が一人で、夫なし家なし金なしで出産を迎える大ピンチでありながら、それこそ太っ腹を見せて、小さく縮こまっている人達を逆に助けてゆくストーリーです。

「OK!大丈夫、私が何とかするから」「困った時は昼寝しよう」「風向きが変わったら、ドーンといけばいいから」「とりあえず生きていかなきゃ」という言葉とメッセージが気持良く響きます。「迷惑をかけないように」と気兼ねをするのが、最大の美德ではありません。孤立するだけです。互いに迷惑をかけあわないと人間は生きていきません。「助けてくれるかい」と言える社会が、本当に生きるに値する「粹(いき)だね」という社会なのです。

今年が遅い臥龍梅↓



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>